

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

製品名：グリス to clean
供給者の会社名：株式会社エム・エル・エス
住所：埼玉県東松山市新郷 83-1 / 〒355-0071
担当部門：事業部クリンリネス G
電話番号：0493-27-1777
FAX番号：0493-23-9814
推奨用途：グリーストラップ用油脂鹸化剤、物品の洗浄剤
使用上の制限：推奨用途以外には使用しない
整理番号：M001616

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類：

《物理化学的危険性》

酸化性固体 分類できない

《健康に対する有害性》

急性毒性（経口）： 区分4

皮膚腐食性／刺激性： 区分2

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性： 区分1

特定標的臓器毒性（単回ばく露）： 区分3（気道刺激性）

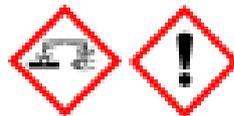
《環境に対する有害性》

水生環境有害性－短期（急性）： 区分2

（上記で記載がない危険有害性は「区分に該当しない」又は「分類できない」に該当する）

絵表示又はシンボル、注意喚起

危険



危険有害性情報：

・飲み込むと有害 ・皮膚刺激 ・重篤な眼の損傷 ・呼吸器への刺激のおそれ ・水生生物に毒性

注意書き：

《安全対策》

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

粉じんの吸入を避けること。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

取扱い後は手をよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

必要な時以外は環境への放出を避けること。

《応急措置》

飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。口をすすぐこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察を受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

《保管》

直射日光、40℃以上、多湿及び凍結のおそれのある場所を避けて密閉して保管する。

子供の手の届かないところに保管する

《廃棄》

内容物、容器を国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成および成分情報

化学物質／混合物の区別： 混合物

成分及び濃度：

化学名又は一般名	濃度	化審法番号	CAS 番号	その他の情報
過炭酸ナトリウム、炭酸塩、ビルダー		既存	既存	

4. 応急措置

吸入した場合： 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。水でうがいをし、口、喉を良く洗い流す。気分が悪い場合は医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合： 付着した部分を多量の水または微温水で良く洗い流しながら洗浄する。外観に異常が見られたり、痛みがある場合は、医師の手当てを受ける。付着した作業衣、衣類、靴等は脱ぎ去り、洗浄又は洗濯する。

眼に入った場合： こすらずに(こすると眼球を傷つける恐れがある)、すぐに清浄な水で15分以上洗眼する。洗眼の際は、まぶたを良く開いて、眼球、まぶたの隅々まで水が良く行き渡るように洗浄する。速やかに専門医の診断を受ける。洗浄が遅れたり、不十分だと眼の障害を生ずる恐れがある。

飲み込んだ場合： 清浄な水で口の中を洗い、水又は牛乳を飲ませる。意識のない場合には絶対に吐かせないこと。速やかに医師の診断を受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状：

眼に入ると視力の低下や失明を起こすおそれがある。繰り返し接触していると皮膚

炎または慢性湿疹の症状を呈するおそれがある。

5. 火災時の措置

適切な消火剤：	泡、粉末、二酸化炭素、散水
使ってはならない消火剤：	特になし
火災時の特有の危険有害性：	加熱分解により発生する酸素ガスが周囲の可燃物の燃焼を助け、火災を激しくするので注意が必要である（支燃性）。
特有の消火方法：	周辺火災の場合は、速やかに容器を移動する。困難な場合は、周囲の設備などに散水して冷却する。消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の特別な保護及び予防措置：	消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。状況に応じ防毒マスク等を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：	作業の際は保護具（粉じん用マスク、自給式呼吸器、保護手袋、保護衣、ゴーグル等）を着用し、粉じんが皮膚に付着しないようにする。屋内の場合は十分に換気を行う。
環境に対する注意事項：	漏出した製品が多量に河川等に排出され、環境への影響を起ささないよう注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないよう注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材：	少量の場合はほうき等で、空容器に回収し、後は多量の水で洗い流す。 多量の場合はほうき、スコップ等で、出来るだけ取り去り、後は多量の水で洗い流す。漏出物を製品容器へ戻したり、くず入れに捨ててはならない。廃棄は産業廃棄物処理業者へ委託する。
二次災害の防止策：	危険区域から立ち退く。付近の着火源になるものを取り除く。漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。濃厚な溶液が下水等に排出されないよう注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	適切な保護具（防じんマスク、自給式呼吸器、保護手袋、保護衣、ゴーグル等）を着用し、吸入を防ぎ、眼、粘膜、皮膚との接触を避ける。取扱いに際しては高温物、スパーク、火気を避ける。作業場所には局所排気装置をつけるか換気を十分に行う。完全密封状態や加温状態にしない。分解を促進する異物の混入を避け、一旦容器や袋から出したものは、元の容器や袋に絶対に戻さない。
-------	---

- 安全取扱注意事項： 取り扱い施設の床面は、地下浸透を防ぐコンクリートなどの材質とし、必要な場合には流出を防止する措置を講ずる。容器の落下、転倒に注意し、衝撃を与えたり引きずる等の粗暴な扱いをしない(内容物漏出防止)。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉じんを発生させない。眼に入れない。
- 接触回避： 強酸化剤、還元剤、強酸、水分との接触を避ける。
- 衛生対策： 取扱いには保護具を着用し、汗等で濡れた身体での取扱いを避ける。
取扱い後は手、口、眼等、露出部をよく洗い、また衣類に付着した場合は着替える。
作業域内では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所へは、手袋、その他汚染された保護具を持ち込んではいない。
使用場所の付近は水場を避け、可燃物、引火性物質を置かない。

保管

- 安全な保管条件： 容器は高温、多湿、直射日光を避け、雨の当たらない風通しの良い屋内に保管する。保管場所には可燃物、引火性物質、水分等を置かない。
- 技術的対策： 換気の良い場所で容器を密栓し保管する。地面に直接置かない。使用途中の半端な容器は、使用后必ず密閉保管する。濡らさない。湿気の多いところに保管しない。
- 安全な容器包装材料： 破損がない限り既存の容器を使用する。容器を移しかえる場合は、プラスチック、ポリエチレン製容器を使用する。銅、鉄、真鍮など分解を促進する金属の材質を使用してはならない。

8. ばく露防止および保護措置

- 設備対策： 取扱いについては換気の良い場所で使用する、又は局所排気装置を使用する。取扱い場所にはシャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
- 管理濃度： 未設定
- 許容濃度： 日本産業衛生学会 未設定
ACGIH (TLV-TWA) 未設定
- 保護具： 保護面、保護手袋、前掛け、保護長靴等の保護具を作業者の人数分以上備え付け必要に応じ使用する。
- 呼吸用保護具： 粉塵が発生する場合は防じんマスク
- 手の保護具： 不浸透性のゴム手袋等
- 眼・顔面の保護具： 普通保護眼鏡、ゴーグル型等
- 皮膚及び身体の保護具： 保護衣(長袖・長ズボン),保護長靴,前掛け
- 特別な注意事項：

9. 物理的および化学的性質

- 色及び物理状態： 白色細粒状
- 臭い： ほぼ無臭
- 融点／凝固点： データ無し
- 沸点： 又は初留点及び沸点範囲： データ無し

可燃性：	不燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界：	データ無し
引火点：	無し
自然発火点：	データ無し
分解温度：	データ無し
pH：	約 10～12 (1%)
動粘性率：	データ無し
粘度：	データ無し
溶解度：	データ無し
n-オクタノール／水分配係数(log 値)：	データ無し
蒸気圧：	データ無し
密度又は相対密度、又はかさ密度：	約 1.1～1.2 (g/cm ³)
相対ガス密度 (空気=1)：	データ無し
粒子特性：	データ無し
溶解性 (水に対する溶解性)：	易溶
溶解性 (溶媒に対する溶解性)：	不溶

1 0. 安定性及び反応性

反応性： 乾燥した冷暗所では安定。加熱したり異物や水分が混入すると分解して酸素ガス及び熱を発生し可燃性を示す。熱がこもると分解が加速され、急激に分解して高温に達し、可燃物を発火させることがある。密閉容器では破裂することがある。

安定性： 通常の取扱いにおいては安定。酸化性を有する。

危険有害反応可能性：
強酸と激しく反応して炭酸ガスを発生する

避けるべき条件： 日光、熱、水、高温多湿

混触危険物質： 酸化剤、還元剤、強酸、有機物、金属、水分との接触

危険有害な分解生成物：
一酸化炭素、二酸化炭素等

1 1. 有害性情報

急性毒性： 計算値 LD50=約 1530mg/kg より区分 4 とした。

皮膚腐食性／刺激性： 区分 2 に該当する成分(過炭酸ナトリウム)が 10%を超えるため、区分 2 とした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：
区分 1 に該当する成分(過炭酸ナトリウム)が 3%を超えるため、区分 1 とした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性：
区分に該当しない

生殖細胞変異原性：	区分に該当しない
発がん性：	区分に該当しない
生殖毒性：	区分に該当しない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：	区分3（気道刺激性）に該当する成分（過炭酸ナトリウム）が20%を超えるため、区分3（気道刺激性）とした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）：	区分に該当しない
誤えん有害性：	区分に該当しない

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)：	区分2に該当する成分（過炭酸ナトリウム）の合計が25%以上のため区分2とした
水生環境有害性 長期(慢性)：	区分に該当しない
生態毒性：	データ無し
残留性・分解性：	生分解性良好
生体蓄積性：	データ無し
土壌中の移動性：	データ無し
オゾン層への有害性：	モントリオール議定書の該当物質を含有しない。
環境基準：	n-H 値=0ppm、無りん

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物：	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、内容物を明確にし、処理業者に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装：	関連法規ならびに地方自治体の基準に従い、適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後処分する。
その他注意事項：	

1 4. 輸送上の注意

国連番号：	1479	品名(国連輸送名)：	その他の酸化性物質（固体）（他の危険性を有しないもの）
国連分類(輸送における危険有害性クラス)：	5.1		
容器等級：	III		
海洋汚染物質：	該当せず		
輸送又は輸送手段に関する			
特別の安全対策：	運搬に際しては容器に漏れのない事確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、		

荷崩れの防止を確実に行う。直射日光、高温、水濡れに注意する。その他、労働安全衛生法などの法令に定めるところに従う。

国内規制情報： 船舶安全法： 危告示 別表1 酸化性物質類 酸化性物質
航空法： 輸送許容条件 5. 酸化性物質類 5.1 酸化性物質

1 5. 適用法令

消防法： 非該当
化学物質管理促進法（PRTR 法）： 第1 種指定化学物質：
(698)ニトリロ三酢酸及びそのナトリウム塩 4.8%(2023 年4 月より該当)
労働安全衛生法： 非該当
毒物及び劇物取締法： 非該当
大気汚染防止法： 非該当
下水道法、水質汚濁防止法： 該当（pH）
土壌汚染対策法： 非該当
廃棄物の処理及び清掃に関する法律： 産業廃棄物規則

1 6. その他の情報

安全上重要であるがこれまでの項目名に直接関連しない情報： 特になし

- 参考文献： 1) 日本規格協会発行 JIS Z 7252:2019、JIS Z 7253:2019
2) 原料メーカーSDS
3) 化学物質評価研究機構 CREI 有害性評価書
4) 製品評価技術基盤機構 GHS 分類結果
5) 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター GHS モデル SDS 情報
6) 他

ここに記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、全ての情報を網羅しているものではなく、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。新たな情報を入手した場合には追加、訂正されることがあります。全ての化学品には未知の有害性があり得る為、取り扱いには細心の注意が必要です。注意事項は通常の実施を対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、その用途、用法に適した対策を実施して下さい。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行ってください。

製品仕様は製品改良のため予告なく変更することがあります。